

2 Topics 1 ワクチンのコミュニケーションを考える

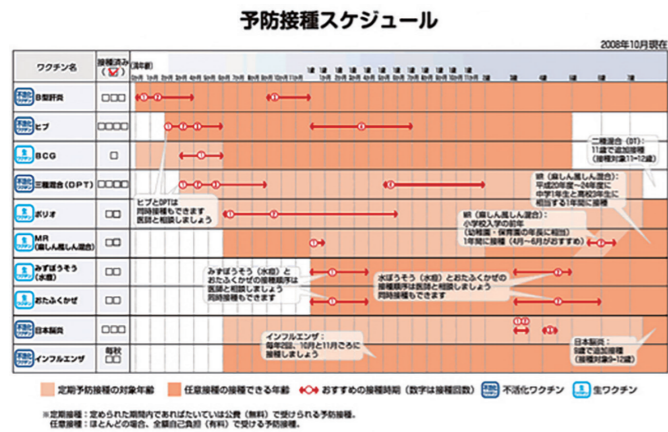
新型コロナウイルス感染症の登場により主に小児や高齢者が対象であった予防接種が全ての年代のものとなったことから、世界中で「Vaccine Hesitancy (ワクチンヘジタンシー)*」の存在が大きくなり、ワクチンの接種率低下を招く事態となっています。今回、当会主催セミナーで東京都立小児総合医療センターの堀越 裕歩先生に「ワクチン接種のコミュニケーション」についてお話を伺いました。堀越先生のご講演内容も踏まえ、あらためて子どもたちの命と健康を守るためのワクチンのコミュニケーションについて考えていきます。

*「Vaccine Hesitancy」とは、接種ができるにも関わらず予防接種を拒否または遅延させること。「ワクチン忌避」ともいう。

当会の「ワクチンのコミュニケーション」のはじまり

2008年、「予防できる感染症から子どもたちを守りたい」という願いのもと、当会の活動が始まりました。当時の日本は「ワクチンギャップ」が解消されておらず、ワクチンがあっても日本では承認さえされていない。感染症やワクチンについての情報は少なく、保護者が知る機会に限られている。国内で起きているVPDにより命を脅かされている子どもたちの実態は伝えられていない。これらの問題点に生活者が気づかないままに、世界のスタンダードとのギャップが拡大しました。

会では、「ワクチン接種でVPDから子どもたちの命と健康を守る」というメッセージを発信し、「いつ、どのワクチンを、どのように受ければよいか」が一目でわかる「予防接種スケジュール」を作成しました。2008年版の「予防接種スケジュール」は、これまでになかった実用的なコミュニケーションツールとして、医療関係者にも保護者にも好評でした。日本の予防接種スケジュールの基本形となっています。



ワクチンになぜコミュニケーションが必要か？

ワクチンにコミュニケーションが必要な理由は、ワクチンは接種しなければ効果が得られないからです。さらに小児の場合、コミュニケーションの対象である保護者は常に入れ替わり、ワクチンの制度や社会背景にも変化があります。それに応じて適切なコミュニケーションが必要となります。

また、近年はVaccine Hesitancyによって、国や行政の通知だけでは接種率の維持が難しくなり、保護者や社会全体に対するボトムアップのアプローチが重要視されています。

Vaccine Hesitancyで麻しんワクチンの接種率が低下

現在、世界的にVaccine Hesitancyによる麻しんワクチンの接種率低下が問題となっています。日本でも2011年度以降95%以上を維持

していた第1期(1歳代)の接種率が2021年度に93.5%に低下しました。加えて、2022年度の第2期(小学校入学の前年)の接種率が1県を除いて全国の都道府県で95%未満となったこともあり、麻しんの流行が懸念されています。

Vaccine Hesitancyの要因 — 3Csから5Csへ

2019年1月、WHOは「世界の健康に関する10の脅威」の一つとしてVaccine Hesitancyを取り上げました。現在、Vaccine Hesitancyの要因の「3Csモデル」は「5Csモデル」に替わってきました。

5Csモデル
Confidence: 信頼 ワクチンの有効性と安全性、医療機関や政府/行政への信頼
Complacency: 慢心 ワクチンの必要性やVPDのリスクを独りよがりの評価
Constraints: 制約 (3Cモデル) Convenience: 利便性) ワクチンの有無、価格、アクセスなど物理的、心理的障壁
Calculation: 計算 広範な情報検索への向き合い方
Collective Responsibility: 集団的責任 集団免疫で他者を守るうとする意志

Calculation (計算) は、予防接種の適切な決定を下す際に、個人が行う広範な情報検索を指しています。リスクとベネフィットを計算することは、必要以上に大量のリスク情報を目にする事になり、その結果、計算量(検索量)が多い人ほどワクチン接種を回避する可能性があるということです。

ワクチンのリスクコミュニケーション

厚生労働省は、食品の安全に関するリスクコミュニケーションについて「リスクに関係する人々の間で、食品のリスクに関する情報や意見を相互に交換すること」と説明し、さらに「有害性やおおる確率がどの程度ならば受け入れ可能で、そのレベルまでリスクを下げるためにどうすればよいかについて関係者の理解を深め、共に考えようというもの」としています。

ワクチンにおきかえて考えてみると、被接種者である一般人、医師や研究者などの専門家、行政関係者が、普段からVPDの感染リスクやワクチン接種の安全性、信頼性についての情報を共有することで、正しい意思決定のためには、リスクコミュニケーションが成功の鍵となります。

正しい情報提供だけでは、リスクは成功しない

VPDやワクチンについて数値を示しながら正確な情報を提供することは、リスクコミュニケーションでしょうか。説明を受けた人は、ワクチンを接種するでしょうか。

リスクコミュニケーションは、お互いが正しく理解するための情報や意見交換であり、リスク情報を一方的に提供するだけでは成功しません。一般人の感情、疑問などを医師が知り、それに対してわかりやすい情報提供を重ねることで、一般人はワクチン接種の意義を理解し、正しい意思決定ができるようになります。

人間は必ずしも合理的な判断をするとは限らない

2002年にノーベル経済学賞を受賞した、心理学者のダニエル・カーネマンは、行動経済学で「人間は必ずしも合理的な判断をするとは限らない」という前提を示しています。

例えば、医師は、麻しんワクチンの説明として科学的なデータを示し、論理的に必要性を伝えます。感染による重症化のリスクは高く、副反応リスクはずっと低いからです。それに対して一般人は、「麻しんは流行ってないし、接種し何かあったら怖い」と考え、「接種しない」と結論付ける人がいます。行動科学では、このような非合理的な意思決定を「認知バイアス」と言います。

ワクチン接種に影響する認知バイアス

- **利用可能性ヒューリスティック:** 正確な情報ではなく、直感をもとに行う意思決定。メディア報道や身近な人の体験から情報を得ると実際よりもリスクを過大に見積もる。
- **不作為バイアス:** 何かをしてマイナスな結果になるなら、何もしない方がよいという心理。ワクチンを接種して副反応が起こることを嫌い、感染するかもしれないが接種しない選択をする。
- **現在バイアス:** 将来の大きな利益より目の前の小さな利益を優先する心理的傾向。必要性を理解していても、実際の接種を先延ばしにしてしまう。
- **正常性バイアス:** 非日常な事態に直面しても、あえて日常的な事態と処理する心理。感染症が大流行しても「自分は大丈夫、感染しない」と思い込もうとする。

専門家と一般人のリスク認知のギャップ

専門家と一般人では、知識量や科学的な視点が異なるため、リスクに対する評価も異なります。医師と一般人では、リスクに対する見え方が違う、リスク認知のギャップがあります。

例えば、例えばワクチン接種後のアナフィラキシーショックの出現について専門家は科学的な視点で、許容できる頻度を考えますが、一般人は直感的に考え、「あるか、ないか」が気になります。リスク認知は、どちらが正しい、誤っているということではありません。専門家は、リスク認知のギャップを踏まえたコミュニケーションを図ることが重要です。

リスク評価の特徴

専門家のリスク評価	一般人のリスク評価
科学的	直観的
受容できるリスクかを考える	リスクが「ゼロ」かどうか気にする
新しい情報で変わる	情報が固定されやすい
それぞれのリスクを比較する	個別の事例にとらわれる
人口の平均で考える	個人の結果が大事

出典WHO「Rapid Risk Assessment of Acute Public Health Events」

小児科クリニックでの接種を迷う保護者とのコミュニケーション

日本では、保護者は医師を信頼し、医師は保護者の不安を和らげ、疑問を解消するコミュニケーションができています。ほとんどの保護者は、ワクチン接種の意義を理解し、接種しています。

堀越裕歩先生のご講演ではワクチン接種を迷う保護者への対応として、次のようなお話がありました。

- **リスクの説明:** リスクは「高いか、低い」であり、「ゼロはない」。接種しないリスクとして、「感染したらどうなるか」を説明し、接種のメリットを強調する。
- **保護者への働きかけ:** まず、保護者と良好な関係を構築する。子どもにとって最良の選択をすることを、医師と保護者の共通の目標として、医師から信頼できる情報を提供する。次に、保護者が何を心配しているかを探り、そのトピックに対して説明する。
- **心理的なテクニック:** 保護者の心配事に対しては共感を示し、専門家として説明してよいかの許可を得る。保護者が「許可する」ことで、能動的に情報を得るスイッチが入る。リスクへの意識を高めるため、恐怖をあおる言葉や強い口調は避ける。

日本で初めて WHOのVSNメンバーに認定

WHOは、インターネット上のワクチンの誤情報や偽情報を問題視し、ワクチンの安全性に関する信頼できるウェブサイトのネットワーク「Vaccine Safety Net (VNS)」を立ち上げています。

2024年、当会のウェブサイト『KNOW★VPD!』が日本で初めてVSNメンバーに認定されました。

今後も、正確でわかりやすい情報発信に努めてまいります。

